

2006年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度で負偏差、中緯度では50~60°N を中心に環状の正偏差が分布した。特に黒海からカスピ海にかけてと北大西洋西部の正偏差が顕著だった。

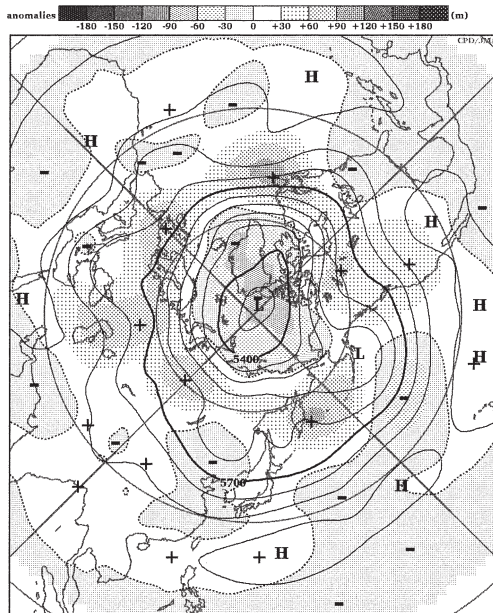
熱帯の対流活動は、インド全域で平年並となり、インド洋赤道域で活発となった。アジアモンスーンは前半休止期であったが、後半にモンスーン循環が強まり活動期に入った。それに伴い対流活動の活発域がインド洋赤道域から北進する様子が見られた。また、MJO の東進に伴い、下旬にはインドネシアから西部太平洋にかけて対流活発となり、北西太平洋でも対流活発域の北進が見られた。フィリピン付近ではやや不活発となった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋西部の赤道域で高気圧性循環偏差、アラビア海では低気圧性循環偏差が見られ、月後半にモンスーン循環が強まったことを反映している。日本の南海上では高気圧性循環偏差が見られ、太平洋高気圧が平年より西へ張り出していた。

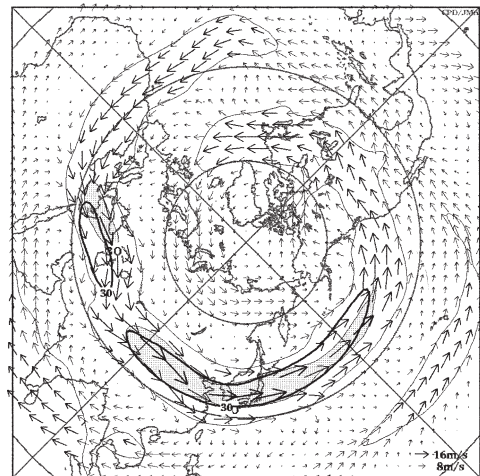
SOI (南方振動指数) は-0.4 (暫定値) となり、5月より基準値に近い値となった。

世界の天候

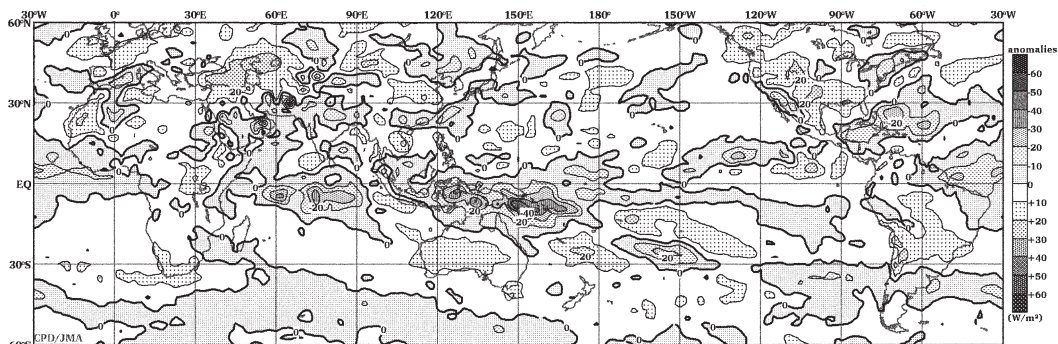
- ① 中国北部から東部の高温
- ② マレー半島からカリマンタン島の多雨
インドネシアのスラウェシ島南部では、下旬に大雨による地すべりで210人以上の死者が伝えられた。
- ③ ヨーロッパの少雨
- ④ アイスランドから地中海西部沿岸の高温
- ⑤ 中央アジア西部から中東の高温
サウジアラビアのジッダ国際空港では、8日の日最高気温が48°Cに達し、平年より約11°C高くなった。
- ⑥ アフリカ西部の高温
- ⑦ 米国北東部の多雨
月末には北東部で、前線や低気圧による大雨で大規模な洪水が発生し、16人が死亡、数十万人に避難が指示されたと報じられた。
- ⑧ カナダ西部から米国西部の高温
- ⑨ 米国中部からメキシコの少雨
- ⑩ オーストラリア南東部からニュージーランドの低温
- ⑪ オーストラリア南部の少雨
オーストラリア気象局によると、同国西部の降水量は、6月としては過去107年間で最も少なかった。
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 福山幸生)



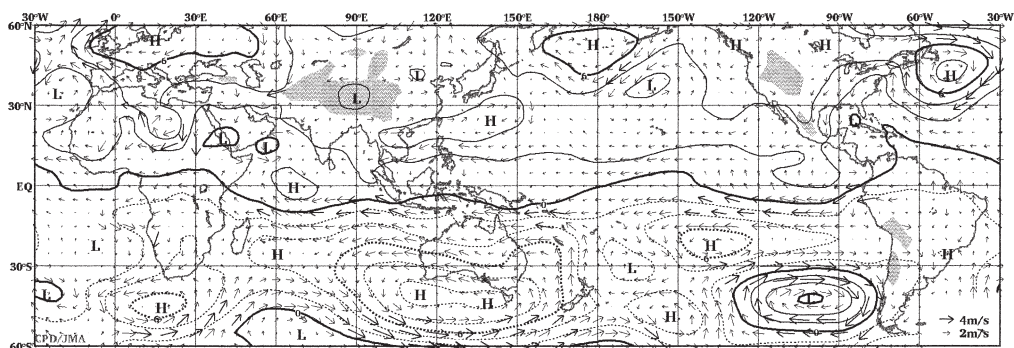
2006年6月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



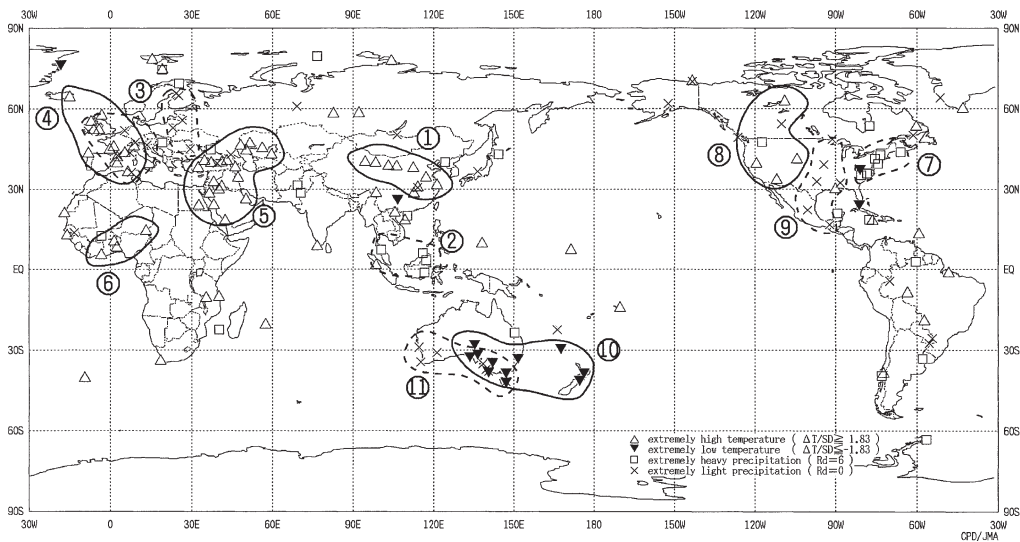
2006年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年6月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 平年値は1979~2000年のデータから作成。



2006年6月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は 2×10^6 m²/s. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。